

沙加戸教授送別の辞

沙加戸弘教授は、二〇一一年九月、満六十五才となられ、本年度末即ち二〇一二年三月末日を以て定年退職の日を迎えられます。まずは、御健勝にて定年を全うされましたことをお慶び申し上げます。

沙加戸先生は、滋賀大学教育学部を卒業されて教職に就かれましたが、学問への思い断ちがたく、大谷大学大学院文学研究科に進んで、研究の道を歩み始められました。御専門は近世浄瑠璃研究、浄土真宗寺院の御息息としての素養と関心から、真宗・親鸞関係浄瑠璃の研究に情熱を注がれ、二〇〇八年に高著『真宗関係浄瑠璃展開史序説』を発表されました。一方で浄土真宗大谷派の説教僧としての御活躍も著しく、『親鸞聖人御絵伝絵解』を上梓しております。

教員となられてからは、研究に対すると等しい情熱で学生を指導され、大学運営に関わる種々の委員・役職も厭われず、多忙な日々を送られました。大谷大学とそこに集う人々に注がれる先生の愛情は、まことに深いものでありました。

「大谷大学の沙加戸先生」の一番の印象は、やはり、「話芸」といふべき話術による名調子の講義でありましょう。ひとたびその聲咳に接した者は、先生の語りに必ずや引き込まれて、いつの間にか先生のフアンにならざるを得ないのです。その魅力に加えて、学生と接する時の、表面の言葉は厳しくとも（口は悪くても）その下から溢れるように流れ出る慈愛の心に感じて、多くの学生が先生の「弟子」という気持

ちになってしまったはずで。

沙加戸先生は大学からは去られますが、学問・研究の世界ではこれまで通り、いやこれまで以上に御活躍なさることでしょう。説教僧としての先生もこれまで以上に輝かれることでしょう。「大谷大学の沙加戸先生」とはお別れしても、「我々の沙加戸先生」とはまだまだお会いし、お教えを戴く機会があると思われま。

これまで多忙を極められた先生が、定年退職を機に少しゆったりとした時間の流れに身をおかれ、ますます本領を發揮されることをお祈り申し上げると共に、今後も我々を変わらずお導き下さるようお願いして、送別の辞と致します。

平成二十四年三月

大谷大學文藝學會

池田敬子